



# 現場の声に答えて、持ち運びやすく ダウンタイムの少ないモバイルノート PC 「dynabook X83 CHANGER」を導入

大塚ビジネスサポート株式会社 様



## 社外での活用に対応し、 生産性を高めるモバイル PC 選び

大塚ビジネスサポート株式会社は、シェアードサービスの推進によってグループ内の間接業務の標準化、集約化を図り、経営の効率化とコスト削減の実現をめざして、2009 年に大塚ホールディングスの一つの組織としてスタート。10 年後の 2019 年には大塚ビジネスサポート株式会社として稼働を開始した。現在約 220 名の社員が勤務しており、社員同士、コミュニケーションをとるスペースも充実して非常に働きやすい環境になっているという。

「IT サポート部は、PC サポートセンターとして 2010 年からグループ数社への PC の LCM (ライフサイクルマネジメント / Life Cycle Management) サービスの提供を開始しました」と語るのは、大塚ビジネスサポート株式会社 IT サポート部 PC サポートセンター センター長の近藤 誠氏。同部はその後、ヘルプデスクのサービス、ネットワークやサーバの運用管理、



スマートフォンの運用管理などへとサービス範囲を徐々に拡大し、現在では 30 社以上のグループ会社にシェアードサービスを提供しているという。

同社では、グループ会社の営業職や MR といったモバイル PC ユーザーからの声を元に、現場で扱いやすいデバイスの導入を検討していた。



大塚ビジネスサポート株式会社  
IT サポート部 PC サポートセンター センター長  
近藤 誠 氏



大塚ビジネスサポート株式会社  
IT サポート部 PC サポートセンター マネージャー  
長浜 茂 氏

大塚ビジネスサポート株式会社 IT サポート部 PC サポートセンター マネージャーの長浜 茂氏は、「やはり、持ち運びやすい形状、軽さ、バッテリーの持ちが重要だと考えています」と選定の条件を語る。同氏はさらに、モバイル PC に求めるもうひとつのポイントとして「バッテリーの寿命やトラブルによるダウンタイムの低減」を挙げた。

こうした状況を踏まえて、同社 IT サポート部がグループ企業に配布するモバイル PC として選択したのは「dynabook X83 CHANGER」だった。

長浜氏は「X83 を選んだ理由は、持ち運びのしやすさ、あとはバッテリーの持ちの長さですね。そちらの方が大きかったと思います。さらに、ユーザー自身でバッテリーの交換ができるというところもポイントの一つだったとっております」と語る。「バッテリーのトラブルがあった時、ユーザー自身がバッテリーを交換できるというのが一つ目。二つ目は充電環境がない場所で使用する場合も、予備バッテリーとして、準備できるところ」だという。社員からは、バッテリーの持ちがよくなったことで、会議室などに充電器を持っていかなくなったという声も挙がっているという。「個人的にはシンプルで飽きのこないデザインと、今までなかったカラーがかなり気に入っています」(長浜氏)



## 機能性、操作性と同時にダウンタイム低減を実現した「dynabook X83 CHANGER」

「少しでもお客さまにバッテリーの心配なくご利用いただくために、Dynabook は長時間駆動を目指す開発を進めてきました。しかしバッテリーには寿命があります。このダウンタイムが、動き続けるビジネスパーソンにはストレスになるものでした」と語るのは、Dynabook 株式会社 首都圏支社 アカウント第三営業部 部長の鈴木 隆だ。現場の業務を支援し、生産性を







Dynabook 株式会社  
首都圏支社 アカウント第三営業部 部長  
鈴木 隆



dynabook X83 CHANGER

向上する機能性や操作性を確保しつつ、ダウンタイムの削減を目指してDynabookが開発したのが「dynabook X83 CHANGER」である。

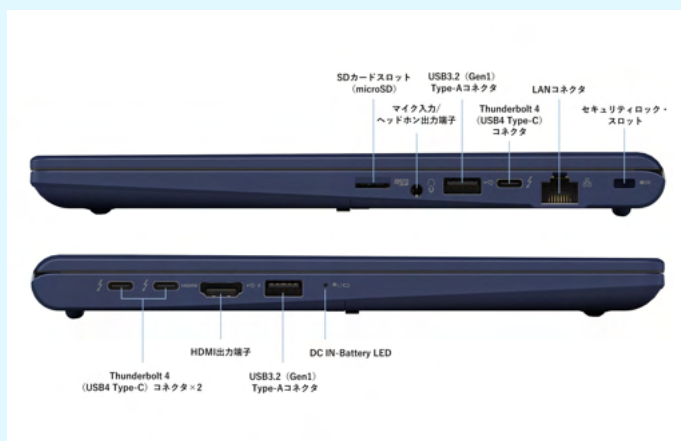
「dynabook X83 CHANGER」のCPUは第13世代インテルCoreプロセッサで、高速なLPDDRメモリを搭載。画面は表計算ソフトやWeb閲覧に適した縦長比率16:10の13.3インチのノンレア液晶ディスプレイである。USBはType-Aが2個、Type-Cが3個用意され、標準タイプのLANコネクタ、HDMI出力端子、microSDカードスロットが備わっている。USBは筐体の両側面に用意されているので、接続時の利便性も高い。

インターフェースを削ることで筐体を薄く、軽く仕上げることはできるが、「dynabook X83 CHANGER」では上記のとおりビジネスに必要なインターフェースをひとつとおり搭載しながらも、1kgを切る軽量化を実現している。また筐体全体に丸みを持たせて手で持ちやすいデザインを追求。第三者認証機関による各種耐久テストで堅牢性も徹底的に検証が行われている。さらにバッテリー駆動時間は動画再生時で約10時間、アイドル時で約26時間（いずれもJEITAバッテリー動作時間測定法 Ver.3.0による値）と、1日の業務であればまず安心して

きるバッテリー駆動時間を備えている。

そしてなにより最大の特徴は、ユーザーが自分で交換できる「セルフ交換バッテリー」の搭載だ。一般的なドライバーで筐体裏の2本のネジを回して蓋をはずせば、簡単にバッテリーを交換できる。さらに安全性を考慮して、バッテリーには金属板を入れて強度を保ち、強度・絶縁性に優れたフィルムで保護。バッテリー交換時にPC内部の基板に触れることなく交換できるように工夫されている。

「dynabook X83 CHANGER」は、電源管理の仕組みも優れている。AC電源に繋いで100%充電のままで放置することに起因するバッテリーの劣化を遅らせるために、多くのPCメーカーでは充電を80%で抑える仕様を採用している。しかしそれでは、バッテリーの性能を100%発揮できない。「dynabook X83 CHANGER」には、AC電源に7日間つなぎ続けると自動的に80%充電に切り替え、それ以外は100%になる「オートモード」が用意されている。また、ある一定温度を超えると自動的に放電し、100%にならないようにすることで、電源の安定性と安全性を担保する仕組みも搭載されている。



充実のインターフェース



セルフ交換バッテリー

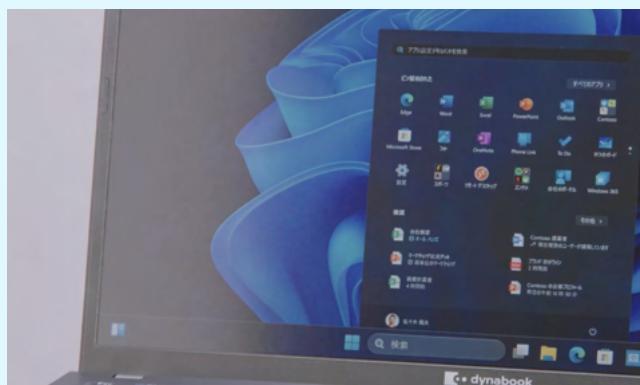
こうしてリリースされた「dynabook X83 CHANGER」。鈴木は「医療・ヘルスケア業界の皆さまをはじめ、さまざまなユーザー様に評価をいただいています」と胸を張る。

## Windows 11 により パフォーマンスも向上

「この開発は Windows 11 だからこそ実現できたともいえます」と鈴木。Windows 11 は最新のドライバやプログラムを使用することでシステム全体のパフォーマンスが向上しているため、よりスムーズな操作性と高速な処理が実現されている。「Windows 11 の新しい UI デザインや機能を活用し、使いやすいインターフェースが提供されているので、忙しいビジネスパーソンの方にはぜひ手に取って試していただきたいと思います」（鈴木）。

現在、大塚ビジネスサポート株式会社はグループ内で「dynabook X83 CHANGER」約 2 万台の展開を進めている。長浜氏によると「導入当初は UI が大きく変わった Windows 11 にユーザーが慣れるまで時間がかかるのではないかと懸念を持っていたものの、実際にはスムーズに移行できました」とのこと。展開時には、Windows 11 のインストーラのサイズがかなり大きいので、ネットワークトラフィックが集中しないよう配慮したという。

Dynabook では、モニタリングによるバッテリー寿命予測



Windows 11 ヘススムーズに移行できたという

や、生成 AI を活用したヘルプデスクサービスの提供も予定している。2025 年 10 月に迫った Windows 10 のサポート終了に伴う Windows 11 への移行にも柔軟に対応可能だ。場所にとらわれずに活躍するビジネスパーソンを支援するモバイルノート PC「dynabook X83 CHANGER」を、貴社の成長につながるツールとして検討してみたいかだろうか。



実際の交換作業について  
動画で確認できます。  
詳しくはこちら▼



## セルフ交換バッテリー 軽く、強く、驚くスピード

動き続けるビジネスパーソンに、動き続けるPCを

13.3型プレミアムモバイルノート

 **dynabook**  
**X83 CHANGER**



dynabook X83 CHANGER について  
詳しくはこちら▼



 **Windows 11**

Elevate potential with Windows 11 Pro devices

●Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Core は、アメリカ合衆国および/またはその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標です。  
●Microsoft、Windows、Windows ロゴ は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。  
●HDMI、HDMI のトレードドレスおよび HDMI のロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。  
●その他の本カタログに記載されている社名・商品名・サービス名などは、それぞれ各社が商標として使用している場合があります。  
※本資料は 2024 年 10 月に作成されています。最新情報については当社担当営業までお問合せください。